

当院眼科外来へ通院中の患者様へ

現在、当科では「光干渉断層計を用いた近視性牽引黄斑症における内境界膜剥離の観察」（承認番号 I2025-284）を行っております。これは当院にて手術された近視性牽引黄斑症の網膜を撮影し、網膜の内層構造において、違いがあるかを解析する研究です。（研究期間： 研究実施許可日から 2027 年 3 月 31 日まで）

本研究は本学の倫理審査委員会の承認と機関の長の許可の下実施されます。

研究責任者：東京医科歯科大学病院 眼科 助教 高橋 知成

この研究では住所・氏名など、患者さんの個人情報を使用されることはありません。本研究では通常診療で撮影されている光干渉断層計を用いますが、患者さんに害をなすものではないため、患者さんから個別に同意を頂くことはせず、この掲示によるお知らせをもって同意をいただいたものとして実施いたします。しかし、この研究への参加を辞退する事を希望される方は、主治医または下記連絡先にお申し出ください。参加を辞退しても、患者さんが今後の治療上の不利益を受けることはありません。

しかし解析中あるいは研究結果が論文などで公表されている場合には、その結果を廃棄できない場合がありますのでご了承下さい。

1. 研究の概要について

近視の有病率は近年飛躍的に増加しており、2050 年までには全世界の約半数が近視に、約 1 割が強度近視になると予測されています。強度近視の重要な合併症として近視性牽引黄斑症があります。これは強度近視において眼の長さ（眼軸長）が伸び、眼球の変形に伴い眼の中の黄斑部に牽引がかかることによって黄斑部の障害が生じる疾患です。この際、網膜の最も内層である内境界膜が他の網膜層から分離する内境界膜剥離という状態がしばしば見られます。

網膜の構造については光干渉断層計(OCT)を用いて簡便かつ非侵襲的に評価が行えており、過去にも内境界膜剥離の意義について研究されておりましたが、多くのことは未だ解明されておられません。今回特に手術となった眼に注目することでより特定のな特徴が解明されることが期待されます。

2. 研究の意義・目的について

本研究では、2024 年 2 月から 2025 年 5 月の間に当院で手術となった近視性牽引黄斑症の患者さんにおいて、当院外来通院中に撮影された OCT の所見を用います。内境界膜剥離のある眼とない眼の比較を行うことで、手術となった眼の内境界膜剥離の特徴を解析します。

3. 研究の方法について

調査の対象となるのは、当院にて網膜硝子体手術された患者さんを対象とします。対象患者の年齢と性別は問いません。診療録から年齢、性別、視力、屈折値、眼軸長、光干渉断層計写真などを調べ、内境界膜剥離の位置を解析していきます。

本研究に参加しても当院で行っている眼疾患に対する診察治療に一切の変更はありません。本研究に参加しない場合と全く同じ医療を受けることができます。光干渉断層計での撮影で体に害をなすことなく、合併症の危険性はありません。

4. 個人情報保護について

本研究で得た情報は、パスワードロックしたエクセルおよびワードファイルで作成し、眼科研究室のインターネットに接続しないコンピュータ上に保存し、保存期間は 10 年とし、電子媒体で保存したものは、完全に抹消し、紙媒体のものはシュレッダーで破棄します。また二次利用の可能性はありません。

5. 研究成果の公表について

この研究の成果は国内外の学会や科学専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前や個人を特定する情報が公表されることはなく、個人情報を守られます。

6. 費用について

本研究にご参加頂く事で、新たに費用をご負担頂く事は一切ありません。本研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。研究の実施にあたっては、利益相反マネジメント委員会において審議され、適切であると判断されております。

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

問い合わせ等の連絡先：

東京科学大学病院 眼科 教授 大野 京子

助教 高橋 知成

レジデント（医科） 小川 祥

東京科学大学病院 眼科外来

03-5803-5681（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）

苦情窓口：東京科学大学 研究推進部研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）